

# 浦安三社祭 おすすめ見学SPOT

※ ルートマップ上の時刻は通過予想時刻を表しています  
※ 時刻・ルートは予定であり、また各スポットでの神輿見学については編集部がおすすめする時刻です。  
※ 当日周辺では交通渋滞が予想されますので徒歩にて見学下さい。

【おさんぽバス運休のお知らせ】  
6月16日(土)・17日(日)は、おさんぽバスは全面運休します。

## 1 宮前通り～清瀧神社前

16(土) 18:00頃  
17(日) 18:00頃

鳥居と神輿が重なる雰囲気は最高、祭りへの気合がクライマックスを迎える。

## 宵宮(三社共通)

6月15日(金)  
PM8:00 御魂入れ  
PM8:30 神輿宮出し



## 2 江川橋から大三角線付近(清瀧神社)

17(日) 15:00頃

江川橋に向かって、境川沿いに進んでくる神輿と人の波は圧巻!

## 3 さくら通り(清瀧神社)

17(日) 11:00頃

宮神輿が先頭に堀江地区の大小の神輿が連なり盛り上がる。

## 神輿渡御ルート

16日	清瀧神社
17日	清瀧神社
16日	豊受神社
17日	豊受神社
16日	稻荷神社
17日	稻荷神社

# 浦安三社

<http://members3.jcom.home.ne.jp/urayasusannya/>

## 清瀧神社

浦安市堀江4丁目1番5号

1196年(建久4年)創建。祭神は海の神である大綿積神(おおわたづみのみこと)で、海路安全や漁業繁栄を司る神社。

氏子地域 堀江、富士見、東野、富岡、弁天、今川、舞浜、高洲、鉄鋼通り、千鳥、港



## 豊受神社

浦安市猫実3丁目13番1号

1157年(保元2年)創建。ご祭神は食物や穀物の神である豊受姫大神(とようけひめのおおかみ)で、五穀豊穣や無病息災、延命長寿を司る神社。

氏子地域 猫実、北栄(一部)、入船、美浜、海楽、日の出、明海



## 稻荷神社

浦安市当代島3丁目11番1号

1689年(元禄2年)に小岩の善養寺から移転。祭神は食物や穀物の神である豊受大神(とようけのおおかみ)で、商売繁盛や病気平癒を司る神社。

氏子地域 当代島、北栄(一部)



## 浦安流・神輿の担ぎ方

浦安三社祭では、神輿の練り歩き(渡御)の途中で時々立ち止まり、「地すり」→「もみ」→「差し」→「ほおり」を一連の動きとして行い、再び歩き出す。この担ぎ方も浦安独自のものだ。「もみ」は豊受のみが行う

### 地すり



神輿を地上すれすれまで下ろして中腰で支え、「マワレ、マワレ、マワレ」の音頭で神輿を「揺らさずに」その場で1周させる担ぎ方。地面をするように神輿を回す動きから「地すり」とよぶ。

### もみ



地すりの体勢から神輿をヒザの高さに持ち上げ、「モメ、モメ、モメ」の音頭で神輿を上下に豪快に揺さぶりながらその場で1周させる。浦安の中でも豊受神社の神輿独自の担ぎ方。

### 差し



神輿を一気に頭上高く差し上げ静止。そして「マワレ、マワレ、マワレ」の音頭で神輿を揺らさずに、差した高さをキープしたまま1周回す。

### ほおり



「差し」で神輿を高く差し上げた状態で、「ヨイ、ヨイ、ヨイ」の音頭に続けて、担ぎ手が「ヨイ、ヨイ、ヨイ」と担ぎ棒を3回たたき、すかさず神輿を上に3回振り上げ、受けとめるという担ぎ方。

これを知っていると  
三社祭がもっと楽しくなる

ウラヤスベディア  
(浦安百科事典)



# 浦安三社祭

## 浦安三社祭とは

浦安の氏神(鎮守)を祀る3つの神社、清瀧神社(堀江)、豊受神社(猫実)、稻荷神社(当代島)が合同で行うお祭り(祭礼)。4年に一度、夏季オリンピックと同じ年の6月15日前後に開催される。100基以上の神輿(みこし)や山車(だし)が浦安のまちを練り歩き、10万人以上の観客で賑わう(神輿の数は全国有数の多さで浅草三社祭と同規模)。

※氏神:その土地や住民を守る神。地域の守護神のこと。

## 三社祭の歴史

3つの神社はそれぞれ毎年10月に祭礼を行っていたが、大正時代に合同の大祭(浦安三社臨時大祭)を6月に行うようになり、こちらが例大祭として定着。昭和30年代に財政事情や警備の問題から一時中断したが、昭和49年(1974年)に復活し現在に至っている。

## 浦安三社祭と自治会

三社祭に神輿を出すのは、「町会」や「町内会」と呼ばれる氏子(うじこ)の組織。古くから神社ごとに組織され、現在の自治会や町内会の区分とは異なっている。

しかし自治会員と氏子は重なっており、三社祭の警備や運営に協力するなど、元町地区を中心に浦安の自治会は浦安三社祭に深く関わっている。

※氏子:氏神の護る地区に住み、氏神を信仰する住民・家庭

## 宮神輿と町内神輿

神輿は神が乗って移動する輿(こし)であり、本来は神社が管理する神具。浦安では大正時代に神輿が登場。次第に町会の出す神輿も増えて、神社の神輿を「宮神輿」、町会で管理する神輿を「町内神輿」(町会神輿)と呼ぶようになった。浦安三社祭には、5基の宮神輿(清瀧神社2基、豊受神社2基、稻荷神社1基)とともに100基前後の町内神輿が繰り出す。

## 宵宮(よいみや)

祭礼の前夜を「宵宮」と呼び、神輿に神が乗り移る「御魂(みたま)入れ」の儀式が行われる。祭礼に参加する神輿が3つの神社に集まり、暗闇の中で一基ずつ御魂入れが行われる。神が乗って少し重くなった神輿は各町会に戻り、翌朝からの祭礼を待つ。(今年は6月15日(金)の夜)



## 「マエダ!マエダ!」と「マイダ!マイダ!」

浦安三社祭では2種類のかけ声が聞こえてくる。「マエダ!マエダ!」と「マイダ!マイダ!」。どちらも浦安独自のもので「マエダ!マエダ!」は神輿を前に進ませる、「マイダ!マイダ!」は神輿を舞うように担ぐ、つまり「舞だ、舞だ」を表しているという説が有力だ。



※関係者へのヒアリングの他、以下のHP等を参考に原稿を作成した。  
「浦安三社」「豊受若衆.com」「浦安市観光協会」等